

TOPICS

トピックス

活動やイベントをご報告します

NEWS

赤十字救急法講習の内容を全面改訂

よりの確な 応急手当を学ぶ場に

2019年4月より、傷や急病などの応急手当が学べる赤十字救急法講習の内容が全面改訂。脳卒中や熱中症、アナフィラキシーショックなど、病気やけがに対する手当について、最新の医学的根拠を反映した内容になりました。

なかでも、救急法救急員養成講

習に加わった「止血帯止血法」では、専用の止血帯ターニケットを使って、太い血管の損傷や上肢・下肢の切断などによる大量出血を素早く止血措置する方法などを学ぶことができます。

救急法だけでなく、赤十字では身近な人の命を守る様々な講習を行っています。ぜひ、一度参加してみてください。



講習では専用の止血帯を用いて「止血帯止血法」を実演



REPORT

防災教育をサポート

「ひとりでも学べる ちょこっとぼうさい」を制作

新たに学校現場の防災教育を支援する自主学習プリント教材を作成しました。この教材は防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の入門編で、地震・台風などの自然災害の危険性や自分の身を守るために必要な知識を10分程度の短時間で学ぶことができます。制作には名古屋地方気象台や愛知工業大学地域防災研究センター長横田教授にご協力をいただき、専門的な知識もわかりやすく解説された内容になりました。



防災教育をバックアップ

REPORT

平成30年度一般社団法人中京馬主協会助成事業

名古屋第一赤十字病院 名古屋第二赤十字病院 医療機器の整備

馬主の皆さまの「目に見える形で社会福祉に貢献したい」との思いで始まった本助成事業。毎年、一般社団法人中京馬主協会様より名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院に医療機器の整備をしていただいております。



電動油圧手術台(左)
一般・消化器外科や小児外科をはじめ、各診療科の手術に対応可能。電動駆動の安全面を重視したシンプルで操作性に優れた機器

遠心血液ポンプ(右)
心筋梗塞や心不全などで自身の心臓では生命維持ができなくなってしまう場合に使用する機器。従来よりもシステム全体がコンパクトになり、操作性と安全性が向上

平成30年度、第一病院には1月にミズホ株式会社製電動油圧手術台MOT-VS600Dj一式、第二病院には12月にテルモ株式会社の遠心血液ポンプシステム1台が整備されました。

ご支援いただきました馬主の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも想いにご厚意に応えられるよう、両病院で有効に活用させていただきます。

EVENT

フォローアップ研修会を開催

発災時の災害救護活動を より充実させる

被災地内で行う赤十字の災害救護活動をサポートする、赤十字防災ボランティアに向けたフォローアップ研修会を1月30・31日の2日間、愛知県支部にて開催しました。テント設営や応急手当などを学んだ他、今回は特別講師として、広島県熊野町の奉仕団の方が西日本豪雨災害の際のボランティア活動について講演。講演後にテーブルごとに分かれて行った意見交換では、多くの参加者から質問が飛び交いました。



より充実した災害救護活動のために



矢野きよ美さん
名古屋市・大須出身。名古屋を中心にラジオパーソナリティーとして活躍するほか、書家としても広く活動

これまで多くの子どもたちと一緒に、胸の奥に隠している「声」を書いて表す授業を行ってきました。悲しい気持ちや辛い気持ちを隠して、周りの大人を気遣い笑っている子どもたち。自分の気持ちを言葉に出すことはできなくても、紙に書くことはできます。お父さんを亡くした男の子の「父」という文字や、「生きてやる」と力強く書かれた作品…。どの書にもたくさんの想いが込められています。子どもたちが、書を見てくださいる方々に対して願うのは、震災や被災地を忘れずに、想うことです。展示会で書を見てくださった方が、自分自身の大切な人を守るために行動に移せるような、きっかけになればと思います。



献血ルームゲートタワー26にて展示会を開催

矢野きよ美さん主催の 「無敵プロジェクト」

東日本大震災直後から被災地に入り、赤十字の救護班と共に活動する中で出会った「雄勝の硯」をきっかけに、被災地の子どもたちを支援するボランティア活動を始めた矢野きよ美さん。現在も宮城・岩手・福島被災地の子どもたちと一緒に「こころの声」を聴きながら一緒に書く活動を行っている。



広がる防災・減災の輪 未来のために、 いま備える

当たり前の日常がガラリと変わってしまった東日本大震災から8年。日本赤十字社では、震災の記憶を忘れることなく、災害で得た教訓を生かして未来に備えることを呼びかけるために、「私たちは、忘れない。」プロジェクトを実施しています。

この活動では、将来起こりうる災害に備えて、一人ひとりが防災・減災への意識を高め、社会全体で災害への対応力を育んでいくことを目的としています。災害から大切な人の命を守るために、皆さんも日頃から、防災や減災について考えてみてください。

スポーツチーム

日本赤十字社愛知県支部は、県内のスポーツチームとパートナーシップ協定を結び、スポーツを通じた社会貢献活動に携わっています。今回のキャンペーンでは、三連ネオフェニックス・名古屋グランパスとコラボし、各試合会場でも赤十字ブースを出展しました。



4・5/三連ネオフェニックスの試合会場では、子どもたちが真剣な眼差しでゲームに挑戦！



6・7/愛知県赤十字血液センターで防災・減災イベントを実施
8・9/栄献血ルームでは非常食の試食体験も実施

県内の企業・法人

愛知県内でも、多くの企業・法人の皆さまにキャンペーンバッジの装着やポスター掲示などで協力いただきました。また、自助力・共助力を高め、防災への意識向上を図るべく協力企業では赤十字防災セミナーを開催。社員の方々に防災・減災についてより理解を深めていただきました。



1/子どもの水難事故防止を学べる水上安全法講習会(1 to Swim スイミングスクール)
2/AEDや心肺蘇生を学ぶ救急法短期講習(株式会社中電オートリース)
3/過去の災害から学ぶ「災害エスノグラフィ」を実施(株式会社ヘルスビューティー)

協力企業



未来へつなげる
防災・減災プロジェクトin愛知

今年も3月1日〜31日の期間、日本赤十字社では日本全国で「防災・減災プロジェクト」私たちには、忘れない。を展開。愛知県内各所でも、復興支援や防災・減災をテーマとしたイベントを開催しました。

クローズ
アップ
CLOSE UP